

## 目次

## I. ALTA 療法総論

1. ALTA 療法	1
2. ALTA 療法の前処置など	1
3. 四段階注射法	2
4. ALTA 療法後の治療	3
5. ALTA 注射後の経過	3
6. 合併症	3
7. 患者さんへの説明	3
8. 日帰り治療	4
9. 併用療法	4
10. 再発	4

## II. Clinical Questions

## 1. 適応 (CQ1 ~ CQ26)

CQ1. どのような症例が ALTA 療法の適応となるのか	5
CQ2. 外痔核を主体とした症例にも ALTA 療法は有効か	5
CQ3. 適応症は、「脱出を伴う内痔核」であるが、貧血を来たしているような 出血症例に対しても有効か。その場合に四段階注射法を施行するのか	5
CQ4. ホワイットヘッド術後の粘膜脱は ALTA 療法の適応となるか	5
CQ5. 直腸脱は ALTA 療法の適応となるか	6
CQ6. 前立腺癌や子宮頸癌に対する放射線治療中あるいは治療後に ALTA 療法を行なうことは可能か	6
CQ7. 炎症性腸疾患を伴う内痔核の症例に ALTA 療法を行うことは可能か	6
CQ8. 痔核脱出に伴う裂肛を認める時はどうするか	6
CQ9. 痔核脱出の近傍に痔瘻を認める時はどうするか	7
CQ10. 肝硬変の症例に ALTA 療法を行うことは可能か	7
CQ11. 出血量が多く、血圧が低下する肝硬変の症例に ALTA 療法は効果があるか	7
CQ12. 腎機能障害のある症例が慎重投与となっているが、慎重投与と判断する指標は何か	7
CQ13. 透析症例への投与は可能か	8
CQ14. リドカインに対する過敏症の症例には ALTA をどのように投与するか	8
CQ15. 金属アレルギーの症例に ALTA 療法を行うことは可能か	8
CQ16. 妊娠を希望する症例には、どれ位前ならば ALTA 療法は可能か	8
CQ17. 妊娠している可能性のある症例に ALTA 療法はなぜ禁忌か	8

CQ18. 授乳中の患者に ALTA 療法はなぜ禁忌か	9
CQ19. 小児への投与は可能か	9
CQ20. 高齢者への投与は可能か	9
CQ21. 血友病のために麻酔や手術ができない症例に ALTA 療法を行うことは可能か	9
CQ22. 抗血小板薬、抗凝固薬を投与中の症例は、ALTA 療法の前に 抗血小板薬、抗凝固薬を中止すべきか	10
CQ23. リウマチ治療中の症例に ALTA 療法を行うことは可能か	10
CQ24. 抗癌剤投与中の症例に ALTA 療法を行うことは可能か	10
CQ25. 副腎皮質ホルモン剤を投与されている症例に ALTA 療法は効果があるか	10
CQ26. 経口避妊薬を投与中の症例に ALTA 療法を行うことは可能か	11

## 2. 前処置と麻酔 (CQ27 ~ CQ41)

CQ27. ALTA 療法中に抗菌剤を経静脈的に投与する必要があるか	12
CQ28. 術前に鎮痛剤投与と局所麻酔を施せば、患者は筋層への針先の刺入を 感じないのではないか	12
CQ29. 推奨される体位はどの体位か	12
CQ30. Z 式肛門鏡を推奨しているのはなぜか	12
CQ31. 透明のプラスチックの筒型肛門鏡を使用して ALTA 療法は可能か	13
CQ32. 肛門が狭く筒型肛門鏡が入らないときにどうするか	13
CQ33. ALTA 療法の施行に際し、肛門鏡の挿入回数ほどの程度か。 また、その意義は何か	13
CQ34. ALTA 療法に必ず麻酔が必要か	13
CQ35. ALTA 療法を施行するのに推奨される麻酔法は何か	14
CQ36. 局所麻酔による ALTA 投与と比べて、腰椎麻酔あるいは仙骨硬膜外麻酔による ALTA 投与では注射針が筋層に当たった時の術者の感覚、 患者の反射・反応に差はあるのか	14
CQ37. 腰椎麻酔下では ALTA 療法の施行時に針が筋層に刺入されていないか をどのように確認するのか	14
CQ38. 無痛化剤付製剤を使用した場合にはリドカインの総投与量が多くなるが、 リドカイン中毒の問題はないか	14
CQ39. 局所麻酔を施行したにもかかわらず、なぜ無痛化剤付製剤が必要か	15
CQ40. 投与前の局所麻酔はどのように行うのか。麻酔が効いているかどうかの判断は どのようにするのか	15
CQ41. 日帰り手術の際の麻酔方法は何がよいか	15

### 3. 四段階注射法 (CQ42 ~ CQ56)

- CQ42. 第一段階の痔核上極部とは痔核本体口側 1/3 のことか。  
 第一段階の投与部位の見分け方はどうするのか…………… 16
- CQ43. 第一、第四段階を必要とする根拠は？第二、第三段階で十分ではないか。  
 第一段階を省略することで合併症も防げるのではないか…………… 16
- CQ44. 各痔核の第一段階に先ず注射し、次に第二・第三段階、第四段階と奥から  
 順に投与するのはなぜか。痔核毎に四段階注射する場合と効果に差異はあるのか…………… 16
- CQ45. 痔核から出血している症例は、注射位置など、どのような工夫があるか…………… 17
- CQ46. 注射針を刺入する際には血管内あるいは血管外に入れるのか。  
 静脈内に直接薬液が入っても問題ないか…………… 17
- CQ47. 投与開始から終了までに要する時間はどのくらいか…………… 17
- CQ48. 術中に ALTA の投与量が適切であるとの指標はあるか…………… 17
- CQ49. 投与終了時の効果判定は何を目安にするのか…………… 18
- CQ50. 痔核への注射の際に出血した場合、どのようにするのか…………… 18
- CQ51. 第二段階から第三段階へ移行する際の境界の感触とはどのようなものか。  
 また、境界の感触が不明な場合はどうすればよいか…………… 18
- CQ52. 痔核の粘膜筋板は断裂していることもあり、また、粘膜固有層は非常に  
 薄いことから、第三段階の注入をするのは無理ではないか…………… 19
- CQ53. 第二段階の投与量の上限は 4 mL となっているが、  
 大きな痔核にはどうするのか…………… 19
- CQ54. 全周性の脱肛にはどのように投与するのか…………… 19
- CQ55. 第四段階の投与で肛門皮下へ薬液が浸潤して痛みが出ることはないのか…………… 19
- CQ56. 第一・第二・第三段階の投与量を多くし、第四段階を省略することは  
 効果に影響するのか…………… 20

### 4. マッサージ (CQ57 ~ CQ60)

- CQ57. マッサージの方法について教えてほしい…………… 21
- CQ58. 適確な場所に適切な量を注入すれば、  
 マッサージを省略してもよいのではないか…………… 21
- CQ59. 第四段階の注射時に肛門鏡で圧迫して薬液が歯状線の外側（肛門側）に  
 漏れないようにしているが、マッサージの際に漏れないのか…………… 21
- CQ60. ALTA 療法後に十分マッサージしているにもかかわらず肛門周囲に腫脹を  
 きたすことがあるが、どうしてか…………… 21

## 5. ALTA 療法後の治療 (CQ61 ~ CQ64)

CQ61. ALTA 療法後直後の経過観察で特記すべき注意事項はあるか	22
CQ62. 手術終了後に局所用止血材料を肛門内に挿入する必要があるか	22
CQ63. 術後の排便制限は必要か	22
CQ64. 術後の痔疾用剤や抗菌剤は必要か	22

## 6. ALTA 療法後の経過観察 (CQ65~CQ68)

CQ65. ALTA 療法後の管理はどのようにすればよいか	23
CQ66. ALTA 注射後の経過観察の日程は具体的にどのようにすればよいか	23
CQ67. 肛門鏡による診察は、どの時期から可能か	23
CQ68. ALTA 療法後の職場復帰の時期はいつか	23

## 7. 合併症 (CQ69 ~ CQ79)

CQ69. ALTA 療法後の硬結についてどのように考えるか	24
CQ70. ALTA 療法後の遅発性の発熱についてどのように考えるか	24
CQ71. ALTA 療法中の血圧低下・徐脈はなぜおこるのか	24
CQ72. ALTA 療法中に血圧低下・徐脈を起こした場合の対処法はどのようにすればよいか	25
CQ73. ALTA 療法施行中・施行直後に疼痛はあるのか	25
CQ74. ALTA 療法後に出血することがあるのか	25
CQ75. ALTA 療法後の直腸潰瘍についてどのように考えるか	26
CQ76. ALTA 療法後に排便異常を生じるか	26
CQ77. ALTA 療法後の直腸狭窄についてどのように考えるか	26
CQ78. ALTA 療法後の直腸膿瘍についてどのように考えるか	27
CQ79. 合併症と投与量の関係についてどのように考えるか	27

## 8. アルミニウムの影響 (CQ80)

CQ80. ALTA 含有のアルミニウムは人体に影響はあるのか	28
---------------------------------	----

## 9. 肛門機能への影響 (CQ81)

CQ81. ALTA 療法は肛門機能に影響はあるのか	29
----------------------------	----

## 10. 患者さんへの説明 (CQ82 ~ CQ85)

CQ82. ALTA と他の硬化剤との効果の違いは何か	30
CQ83. 他の根治的痔核治療法と比較して ALTA 療法の長所は何か	30
CQ84. ALTA 療法の短所は何か	30

CQ85. 説明しておく方が好ましいと思われる内容は何か	30
<b>11. 日帰り治療 (CQ86)</b>	
CQ86. 日帰り治療は可能か	31
<b>12. 併用療法 (CQ87)</b>	
CQ87. ALTA 療法の併用療法とはどのような治療か	32
<b>13. 再発 (CQ88 ~ CQ91)</b>	
CQ88. 再発の定義は何か	33
CQ89. ALTA 療法を再施行する場合の時期及び判断基準は何か	33
CQ90. ALTA 療法後の再発と投与量とに関係はあるか	33
CQ91. ALTA 療法後に再発した部位には痔核結紮切除術は可能か	33
<b>Ⅲ. 文献一覧とエビデンス分類</b>	34-39